

消費者のセルフメディケーションを 支援するための薬剤師の臨床判断研修会

公益社団法人茨城県薬剤師会

会長 根本 清美

〒310-0034 水戸市笠原町 978-47 電話番号 029-306-8934

要旨

1. 啓発事業実施の背景と目的

平成26年6月に閣議決定された日本再興戦略において、「薬局を地域に密着した健康情報の拠点として、セルフメディケーションの推進のために薬局・薬剤師の活用を促進する」ことが謳われた。更に、平成26年1月に厚生労働省から示された、『薬局の求められる機能とあるべき姿』では、「医療の担い手としての役割」や「チーム医療への取り組み」、「在宅医療支援」などとともに、「セルフメディケーションの推進のために、地域に密着した健康情報の拠点として積極的な役割を發揮すべきである」とされている。

このように、薬局・薬剤師には、調剤や医薬品の供給に加え、「かかりつけ薬局」、「かかりつけ薬剤師」として、地域住民のセルフメディケーションを支援していくことが、強く求められている。

医薬分業が進展する以前は、ほとんどの薬局がOTC販売に加え、医療衛生用品や洗剤、試薬、染料など、様々な健康関連化学物質を供給するとともに、健康のことや様々な化学物質についての相談に応じ、地域住民のセルフメディケーション支援を当然のこととして行っていた。

しかし、院外処方せんの発行が進むにつれ、OTCを扱わずに調剤のみに特化した薬局が多く出現するようになった。そこは、処方せんを持参した患者だけしか入れないような形態になっており、地域住民が気軽に健康相談に訪れることは困難である。一方、OTC販売を中心とした既存の薬局も、ドラッグストアの台頭により廃業に追い込まれるところが増加し、地域住民が健康相談をできる場所、セルフメディケーションを支援してくれる場所がなくなってきている。

病気に罹り医療を必要としている患者だけでなく、健康な住民も気軽に立ち寄って、軽度な身体の不具合や健康づくりなどの相談をできることが、薬局の特徴であり存在価値と言える。

本会においては、平成15年度から、積極的に健康情報を発信し、健康づくりを支援す

るとともに健康相談にも応じる薬局を「ヘルシースポット」と認定し、住民へ啓発してきた。今般、それらに加え、OTC等を活用して、住民のセルフメディケーションを支援する薬局を「セルフメディケーション支援薬局」として、事業を展開することとした。

しかし、調剤専門薬局に勤務する薬剤師の中には、OTC販売経験のない者も多かったため、消費者が訴える症状の背景の推察、受診勧奨の判断、適切なOTCの選択などを行うためのスキルを身に付けてもらう目的で、研修会を開催することとした。

2. 啓発事業実施方法および内容

セルフメディケーション支援のための研修としては、疾病に関する研修やOTCに関する研修など、様々な研修方法が考えられる。

今回は、消費者の訴える症状や薬剤師からの聞き取りにより、適切な健康指導、OTCの販売、受診勧告等のセルフメディケーション支援ができるようにするため、実践的な「薬剤師の臨床判断研修会」を開催することにした。

講師には、この分野で多くの指導実績のある、昭和大学薬学部の木内祐二氏に依頼して開催した。

2-1 実施概要

日 時：平成26年6月8日（日）午前10時～午後4時

会 場：茨城県薬剤師会館大会議

対 象：薬剤師

参加者：82名

プログラム：薬剤師の臨床判断（腹痛編）～症候学とトリアージを学ぶ～

講 師：昭和大学薬学部 木内祐二

スタッフ：昭和大学薬学部 鈴木千佳、亀井大輔、栗原竜也

茨城県薬剤師会 西野郁郎、大曾根清朗、延島道広、根田 滋、中山祥子、
田中正行、石塚博己、工藤仁一、種村閑、安河内都紀子

2-2 プログラム詳細

10:00～10:20	導入講義（地域医療の課題、スイッチOTC、チーム医療他）
10:20～10:30	ロールプレイ2症例（急性膀胱炎・慢性胃炎）
10:30～10:55	症候から疾患の列挙
10:55～11:15	講義（臨床判断、アルゴリズム、トリアージ他）
11:15～11:40	腹痛を訴える疾患の列挙
11:40～12:15	疾患に対する症状の特徴の列挙
12:15～13:15	昼食
13:15～13:25	腹痛を訴える疾病とその特徴

13:25 ~ 14:05	疾患を推測するためのアルゴリズム作成
14:05 ~ 14:15	作成物の発表・全体討論
14:15 ~ 14:50	腹痛を訴える疾病のトリアージプラン作成
14:50 ~ 15:00	トリアージプランの発表と全体討論
15:00 ~ 15:20	LQQTSAFの順による患者からの情報収集ロールプレイと紹介状作成
15:20 ~ 15:35	参加者同士によるロールプレイ
15:35 ~ 16:00	まとめと講評

3. 啓発事業成果

3-1 参加者アンケート

薬剤師のための臨床判断研修会 参加者アンケート

今後の参考とさせていただくため、下記アンケートを終了時までにご記入ください。

問1 あなたの勤務先を選んでください。
 薬局 店舗販売業 病院・診療所 無職 その他（ ）

問2 あなたの勤務先で、一般用医薬品の取り扱いがありますか。
 ない 50品目以下 51～100品目 101～200品目 201品目以上

問3 今回の講義は、日常の業務を行うにあたり役立つ内容でしたか。語句を選択してその理由をお書きください。
 とても役立つ 役立つ 役立つ 役立たない まったく役立たない
 (理由)

問4 この研修会を引き続き開催した時、あなたは参加しますか。語句を選択してその理由をお書きください。
 参加する 参加しない
 (理由)

問5 今回の訴えは腹痛でしたが、次回参加するとしたら、どのような訴えをテーマにしたものが良いですか。
 ()

問6 今回の研修のスケジュール、内容、講師、運営方法等についてお気づきの点や、感想、要望等がありましたら、ご記入下さい。
 ()

3-2 アンケート集計結果

n = 77 (回収率：93.9%)

問1 あなたの勤務先を選んでください。

薬局：70 (90.16%)，店舗販売業：1 (1.3%)，病院・診療所：4 (5.2%)，
無職：1 (1.3%)，その他：1 (1.3%)

問2 あなたの勤務先で，一般用医薬品の取り扱いがありますか。

ない：10 (13.0%)，50品目以下：39 (50.6%)，51～100品目：7 (9.1%)
101～200品目：2 (2.6%)，201品目以上：17 (22.1%)，無回答2 (2.6%)

問3 今回の講義は，日常の業務を行うにあたり役立つ内容でしたか。語句を選択してその理由をお書きください。

とても役立つ：60 (77.9%)，役立つ：16 (20.8%)，役立たない：1 (1.3%)
まったく役立たない：0 (0%)

- ・症状から病気を考えることは，とても新鮮で勉強になった。
- ・OTCが面白いと思った。
- ・薬局に来た患者さんの，急性・慢性の判断のポイントやプライマリーケアの適切な判断方法を御指導頂，大変役に立った。
- ・患者さんへの接し方，LQQTSAによる聞き取りをOTC販売はもちろん調剤業務にも役立てたい。

問4 この研修会を引き続き開催した時，あなたは参加しますか。語句を選択してその理由をお書きください。

参加する：76 (98.7%)，参加しない：0 (0%)，無回答：1 (1.3%)

- ・セルフメディケーションとか今までとは違う視点で日常業務を振り返れた。6年生の学生・卒業生に負けるわけにはいかない!!
- ・相談業務の強化，スキルアップにつながる。
- ・参加型の授業なので，考えて身につく部分が大変多い講座だった。
- ・実務に必要な武器となる。
- ・新しい病態の知識を得られる。

問5 今回の訴えは腹痛でしたが，次回参加するとしたら，どのような訴えをテーマにしたものが良いですか。

かゆみ，めまい，痺れ，下痢，咳，不眠，アレルギー，呼吸器系，循環器系，腰痛，発熱，目・鼻・耳の症状，皮膚病，倦怠感，婦人科系，浮腫，疼痛，精神疾患

問6 今回の研修のスケジュール、内容、講師、運営方法等についてお気づきの点や、感想、要望等がありましたら、ご記入下さい。

- ・薬学部で学生に直接教えている方が講師だったので、わかりやすかった
- ・密度の濃い研修だったので、あっという間に過ぎてしまった。
- ・ディスカッションでは、メンバーの知識不足のため建設的な意見があまり出なかった。
- ・多くの場合、受診勧告となってしまうと薬剤師の存在意義が少ないと感じた。
- ・ディスカッションを通して、もっとスイッチOTCを増やす必要があると感じた。
- ・丸一日の研修には出づらいので、午後だけにしてほしい。
- ・集中力が続かないので、半日の研修が良かった。
- ・県南地区でも開催してほしい。
- ・スケジュールがタイトだったので、トイレ休憩時間を設定して欲しかった。
- ・平日の夜に地域薬剤師会でも研修ができるような短縮版があるとよい。
- ・薬剤師の意識を変革していくような研修会を、これからも続けてほしい。

3-3 アンケート集計結果の考察

この事業の目指すところは、参加した薬剤師の薬局で、OTCを販売し始めたり、地域住民の健康相談を実施したりすることであるが、その測定は現時点では困難であるため、参加者アンケートから成果を下記のように推察した。

- ・問3で78%の方が「とても役立つ」とし、大多数の参加者にとって役立つ内容であったようである。
- ・問3で「役立つ」とした理由として、医療面談の手法であるL(部位)、Q(性状)、Q(程度)、T(時間と経過)、S(状況)、F(寛解・増悪因子)、A(随伴症状)による聞き取りの手法を取り上げ、OTC販売だけでなく調剤の場面でも役立てようとする意識が垣間見られた。
- ・問4において、同様の研修会を開催した場合に参加するとした方が99%と高率を示したことから、参加者の満足度が極めて高かったことがわかる。
- ・問4とも関連するが、問5において次回以降開催する場合のテーマに関して、様々な要望が寄せられた。
- ・問6で、「トイレ休憩を設定して欲しかった」とする人がいたが、スケジュールが分刻みでまとまった休憩時間が用意できないため、トイレ等はグループディスカッションの合間に各自取ってもらうようアナウンスはしていたが、ディスカッション中に中座しにくい雰囲気があったのかもしれないので、改善すべき点であった。
- ・問6で「ディスカッションでは、メンバーの知識不足のため建設的な意見があまり出

なかった」とか「多くの場合、受診勧告となってしまうと薬剤師の存在意義が少ないと感じた」とした意見があったが、トリアージプランを作成するグループワークにおいて、グループによっては調剤業務主体で OTC 販売や健康相談の経験が乏しい薬剤師が集まってしまったため、セルフメディケーションを支援するための方策が見つけられず安易に受診勧奨に流れてしまう傾向があったようだ。

4. まとめ

茨城県内には、17 の地域薬剤師会があり、平日の夜の時間帯を利用して研修会が頻繁に開催されており、平成 26 年度日本薬剤師研修センターの認定の集合研修だけでも 437 回開催されている。しかし、その内容は、医療用医薬品に関する研修で、OTC に関する研修はほとんど行われていない。また、多くの薬剤師が、処方せんに記載された医薬品から、ある程度病名が推察された上で、その薬の服薬指導をする流れで業務を行っているので、頭痛や腹痛などの症状を訴える消費者に対して、どうすべきかといった流れでの業務はほとんど行っていないことから、今回の研修会は新鮮に受け止められていた。

さらに、今回依頼した講師は、薬学部で実際に学生に教える立場にあるため、知識を一方向的に教える研修ではなく、参加者を 6～7 名のグループに分け、そのグループで考えさせ、発言させ、発表させることを繰り返す方法で行われたため、参加者が能動的に参加し、自らが有している知識を最大限に活用するとともに他のグループメンバーからの発言により、「気付き」もあり、刺激の多い研修となっていた。

さらには、腹痛を症状とする疾患名を列挙するグループワークでは、メンバーがそれぞれ知識を持ち寄り疾患名を列挙したが、その後示された資料では、グループで考えていた疾患名よりもはるかに多い疾患名が示され、疾病に関する知識が不足していることを自然に自覚できるよう組み立てられており、学習意欲の向上が図られていた。

5. 今後の事業展開

冒頭の事業実施に至る背景でも触れているが、今後は多くの薬局が、調剤や在宅医療だけでなく、地域住民のセルフメディケーションを支援することが求められている。幸い、本県においては平成 26 年度後期から、茨城県の委託を受け「薬局・薬剤師による健康情報拠点整備事業」がスタートし、平成 27 年 3 月現在、179 軒の薬局が茨城県認定の「セルフメディケーション支援薬局」として、健康相談やそれに基づく指導、残薬整理、受診勧奨等の事業を実施している。実施している内容については、年度末にその成果が取りまとめられることになっている。また、この事業のオプションではあるが、検体測定室を設置して血糖や HbA1c を測定する薬局が 44 軒あり、今年度の事業終了時には、それらの測定が地域住民のセルフメディケーション意識の高揚に役だっていることも、報告できる見込みである。

更に、来年度は、薬局による地域住民のセルフメディケーション支援をより一層充実させ、住民が健康相談する際の窓口となれるよう、薬局や薬剤師の支援を充実させて行きたい。6.

配布資料⑦

腹痛を生じる疾患

- 消化管 食道炎 急性胃粘膜病変 急性胃炎 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃捻転
胃アニサキス症 Mallory-Weiss症候群 胃がん 食中毒 急性腸炎
過敏性腸症候群 イレウス 腸重積 急性虫垂炎 憩室炎 Crohn病
大腸がん Behcet病 消化管穿孔 腹膜炎 ヘルニア嵌頓
- 肝胆脾 急性脾炎 慢性脾炎 脾がん 急性肝炎 肝膿瘍 外傷性肝破裂
胆石症 急性胆のう炎 胆管炎 胆道ジスキネジー
- 循環器 心筋梗塞 狭心症 腹部大動脈瘤破裂 大動脈解離 腸間膜血栓
- 呼吸器 肺炎 横隔膜膿瘍 胸膜炎
- 泌尿器 腎盂腎炎 腎結石 尿管結石 膀胱炎
- 生殖器 急性付属器炎 卵巣囊腫莖捻転 子宮外妊娠 精巣捻転
- その他 脾梗塞 外傷性脾破裂 解離性障害(ヒステリー) ポルフィリン症
糖尿病性ケトアシドーシス 帯状疱疹 脊髄瘍----

配布資料⑤

医療面接の標準的な手順

1. 自覚症状に関する質問の手順

L Q Q T S F A の順で症状について質問

部位 Location どこが？

性状 Quality どのように？

程度 Quantity どのくらい？

時間と経過 Timing いつ？いつから？

状況 Setting どのような状況で？

寛解・増悪因子 Factor どんな場合に悪くなる(良くなる)？

随伴症状 Associated manifestation 同時にどんな症状があるか？

2. 心理・社会的情報についての質問

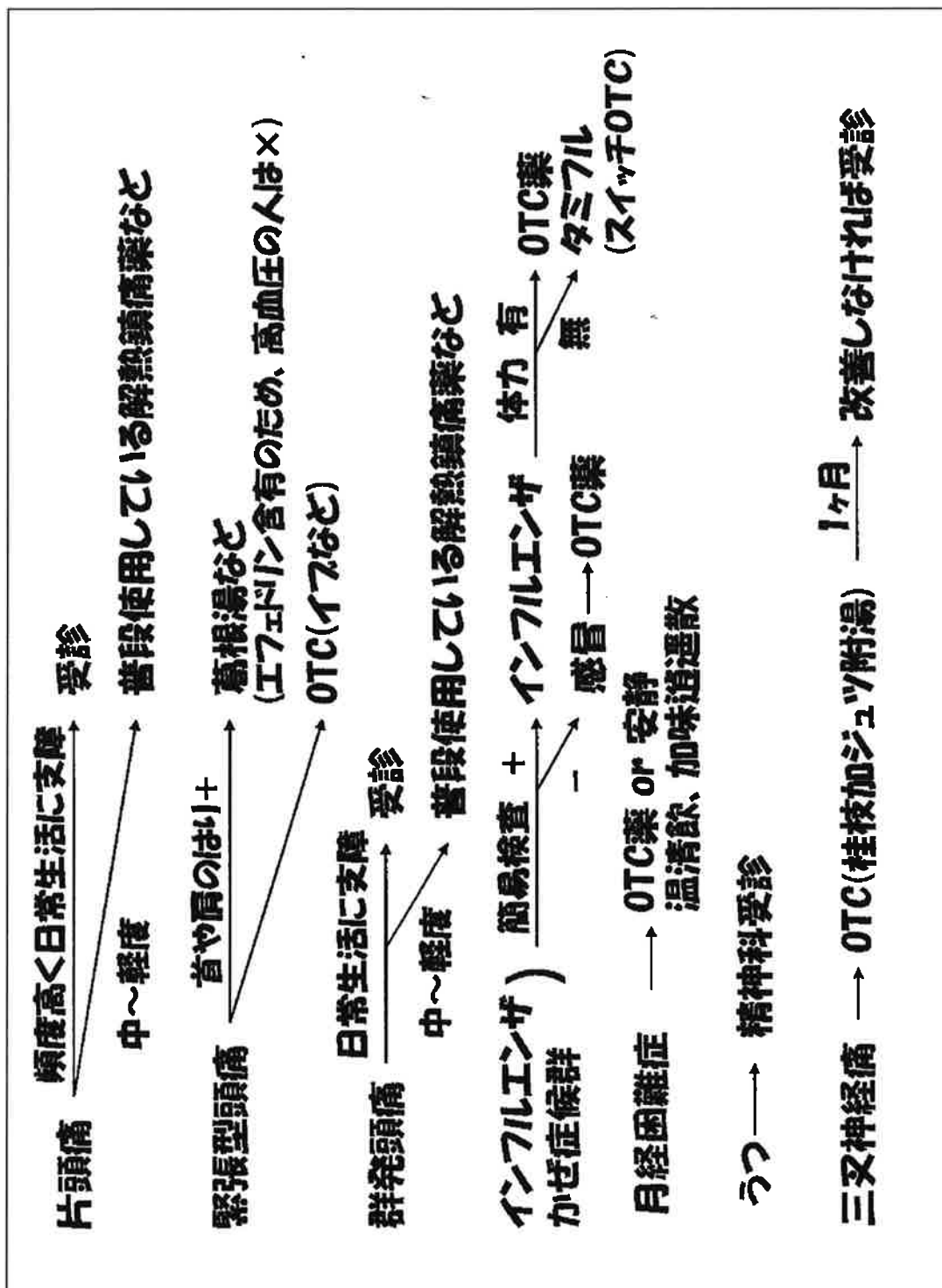
心理・社会的状況 日常生活(職場環境なども)の状況

解釈モデル 自分の病気や現状をどのように考えているか

医師の診断

3. 過去の情報についての質問

既往歴、服薬歴、アレルギー歴 etc



紹介状の作成例

紹介状 (診療情報提供書)

紹介先医療機関名 医療法人 ○○会 ○○クリニック
担当医師 科 山田 太郎 先生 御待史

平成24年12月2日

薬局の所在地: 大阪市北区天神橋〇-〇-〇

名称: ○×薬局 ○×店 .

電話番号 06-xxxx-xxxx FAX 06-xxxx-xxxx

薬剤師氏名 ○× 花子 印

患者氏名	佐藤 次郎	殿	性別	男
患者住所	大阪府豊中市〇〇-〇-〇			電話番号 06-xxxx-xxxx
生年月日	昭和 35 年 1 月 1 日 (5 2) 歳	職業	会社員	

主訴 心窩部の痛み、むかつき
紹介目的 上部消化管についてご精査・ご加療についてのご依頼
既往歴及び家族歴 高血圧症 (平成 14 年～)
病状および当薬局での経過 いつも、大変お世話になります。高血圧症にて当薬局で下記処方箋を調剤している方です。11 月 20 日に、心窩部の痛みやむかつきがあるとのことで来局されました。お話を伺ったところ、1 週間ほど前から症状があり、痛みは食後に増強するとのことです。 仕事が忙しく、生活も不規則とのこと、喫煙 (1 日 1 箱) されていることから、胃酸過多による症状の可能性も考え、ガスター10をお買い上げいただき、服用していただいたところ、1 日 1 錠の服用で 3 日めには改善したとのことです。 ただ、かなり今回の症状が気になったようで、詳しい検査を希望されています。ご多忙の折、大変恐縮ですが、費料のご高診・ご加療を賜りますよう、よろしくお願ひします。
現在の処方 アムロジピン 5mg 1錠 朝
備 考